

南阿蘇における鉄道を基軸とした地域形成史

History of regional development based on Railway Systems in Minamiaso area

熊本大学大学院自然科学研究科社会環境工学専攻 118d8827 藤田 将史

1. 序論

本研究は、南阿蘇地域の履歴をまとめ、今後の地域活動や社会基盤整備に有益な所見を与えることを目的とする。まず、史料や現地踏査を基に南阿蘇の現況を把握し、社会基盤整備に着目して歴史の整理を行った。次に、写真や地図資料を基に駅周辺の空間変遷を追ひ、その可視化を行った。その上で、南阿蘇における地域形成メカニズムの考察を行った。また本研究では、当該地域での社会基盤整備によって、土地利用及び都市施設の立地に空間的な変化が起こることを「地域形成」と定義する。

2. 研究対象地域の現況

南阿蘇地域の現況を把握するため、まず、南阿蘇の概要を整理した。次に、公共施設及び観光施設の立地状況を整理した。最後に、社会基盤整備の現況をまとめた（図 1）。南阿蘇は、近年の道路整備により大型観光地化したものの、中山間地域特有の問題を抱えている地域であることがわかった。



図 1 南阿蘇地域の現況

3. 社会基盤整備に着目した南阿蘇の歴史

本章は社会基盤整備に着目し、南阿蘇の歴史を整理する。具体的には、近代化及び高度経済成長期に着目して歴史を整理した。その上で、南阿蘇における社会基盤整備の位置づけを行った。近代化における鉄道の敷設は、観光客を増加させ、また、産業の発展に大きく貢献した。よって鉄道は、観光地としての南阿蘇の骨格形成に大きな影響を与えていることが

わかった。しかし、道路整備により観光客利用者は減少し、地域産業とともに衰退を始めたことがわかった。

4. 駅周辺における空間分析

本章では、社会基盤整備と地域形成の関係性を可視化することを目的に、まず、1902・1932・1966・1998 年の 4 断面における土地利用及び都市施設の変遷を可視化した。次に、古写真を用いて駅舎及び駅前の変遷を整理した。最後に、駅周辺の断面分析を行った（図 2）。

鉄道の敷設後に駅周辺において建物及び水田の増加や、都市施設が集約していることがわかった。国道の整備後には、役場などの一部の都市施設が分散した。駅舎及び駅前では、利用客を滞留させようという意図が伺えた。

5. 南阿蘇における地域形成メカニズム

本章は、南阿蘇における地域形成メカニズムについて考察することを目的とする。まず、近代化及び高度経済成長期における社会基盤整備が地域に与えた影響を考察し、その上で地域形成メカニズムの考察を行った。

5.1 近代化の与えた影響

近代化における鉄道の敷設により、駅周辺の建物は増加し、都市施設は集中した。これにより、産業は発達し観光地としての骨格が形成された。

5.2 高度経済成長期の変化

高度経済成長期の道路整備により鉄道は衰退し、駅周辺施設の減少・分散が起こった。同時に人口は減少し産業も衰退した。

5.3 地域形成メカニズムの考察

社会基盤整備により土地利用及び都市施設が空間的に変化し、現在の南阿蘇地域が形成されたことが、実証的に示された。

6. 結論

本研究では社会基盤整備に着目し、南阿蘇の地域形成の履歴をまとめた。鉄道の敷設は地域の観光地としての骨格を形成し、地域とともに衰退した。よって、南阿蘇の地域形成メカニズムが明らかになり、鉄道と地域の課題との高い結びつきも伺えた。

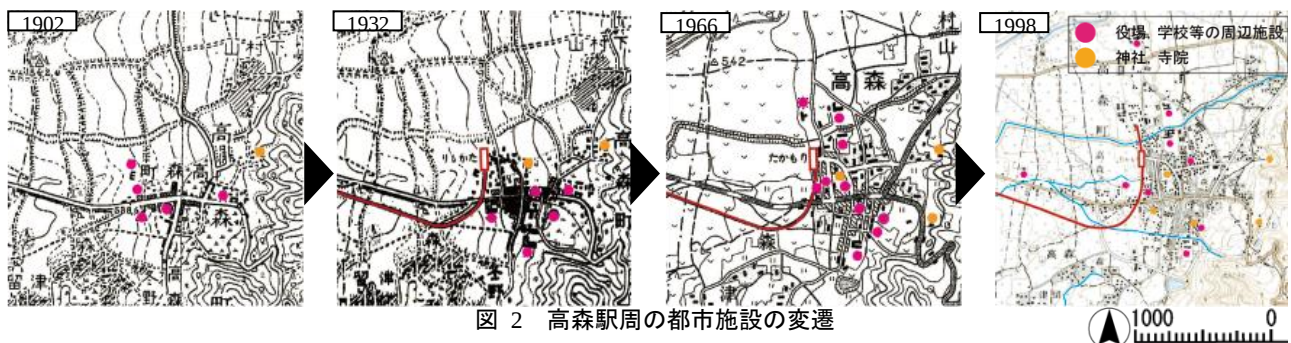


図 2 高森駅周辺の都市施設の変遷